

二、ことばが人となられた

(ヨハネ1・14～18)

一、1節～18節をめぐって

1章には、イエス・キリストが人となつて遣わされた以前の御姿が書かれています。このままの文章ですと意味が受け取りにくいので、よく言われているのは、「ことば」と書かれている箇所を「キリスト」に置き換えてよむ読み方です。分かりやすくなります。そうであるなら、なぜ始めから「ことば」を「キリスト」にしなかつたのかという疑問が浮かび上がってまいります。はっきりした理由は、分かりません。

注解書の助けをいただきつつ、今私達が、これをもっともあり得そうなことだと考えているのは、元々当時のキリスト教会で歌われていた賛美歌であつたという説です。

1節から18節までの区分で考える場合に、もちろん全部が賛美歌であつたという意味ではありません。詩、すなわち賛美歌の歌詞と、散文、すなわち普通の文章が組み合わさっていますので、詩の部分は元々賛美歌、散文の部分はヨハネによる挿入である、という捉え方です。フランススコム訳は、そのように翻訳しています。

二、礼拝における賛美と説教

きょう与えられたテキストは1章14節から18節までですが、今し方見ましたように、枠を広げて1節から18節という区切りで見ますと、神の証しが見えるために必要な、二つのことが見えてまいります。それは、神をほめたたえる賛美と、イエス・キリストにおいて神が御自身を現してくださつたというメッセージです。キリスト教会の礼拝では、賛美とみことばの解き明かし、すなわち賛美と説教者による説教（ないしはメッセージ、宣教）と言われるものがあります。賛美をしない礼拝というものはあるのでしょうか。聞いたことがありません。あるいは、説教（ないしはメッセージ、宣教）のない礼拝というものはあるのでしょうか。ないと思います。賛美を献げ、みことばの解き明かしを聞く、この二つが必要です。

三、聖句に聴く

14節を見てまいります。〈ことばは人となつて、私たちの間に住まわれた。〉とあります。11節の〈この方はご自分のところに来られたのに、ご自分の民はこの方を受け入れなかつた。〉が賛美歌の歌詞であつたとするなら、14節でヨハネは、ことばなる神が来られたことの意味を、さらにしっかりと解説していることになりました。なぜ解説したのでしょうか。実は、ヨハネの福音書が発

行された紀元1世紀の時代、「肉は悪であり、霊は善である」という考え方がありました。これに囚われますと、善である神が、罪深い肉になることはないという考え方に導かれます。そして、仮現説という思想が出てまいりました。イエス・キリストは神であられるから——ここまでは良いのですが——、神であられるお方が罪深い肉になるはずがないという考え方です。こうして、イエス・キリストは人のように見えていたけれども、肉体ではなかつた、あたかも人のように見えていただけだつたという仮現説が生まれました。14節の〈ことばは人となつて、〉の元のことばは、「ことばは肉となつて」です。「肉」とは、「肉体」「人」の意味です。

今日のキリスト教会の信仰は、様々な信じられてきた中で、論争して論争して採択された信仰告白が、基にあります。この戦いは今日も続いています。が、私は、信仰の基本は「ニカイア信条」、正式名は「ニカイア・コンスタンティノポリス信条（381年）」と「使徒信条」で決まつたと受け止めています。

さて、14節の続きの〈私たちの間に住まわれた。〉という表現ですが、〈住まわれた〉の元のことばの意味は、「テントに住む」です。かつて神はモーセに幕屋を造るように指示されました。それを新改訳では「会見の天幕」と呼んでいます。主がモーセと会見し、あるいはイ

スラエルの民と会われたからです。そのように、キリストは私たちの間に住まわれたのです。すなわち、永遠なるお方が、私たちの間に仮住まいなさっている、という意味です。再び14節ですが、〈私たちの間に住まわれた。〉の〈私たちの間に〉を指しているのでしょうか。教会です。イエス・キリストの名によって集まり、神に礼拝を献げている人々です。神であるイエス・キリストは、一人、二人と複数名で礼拝を献げている教会の真中に、仮の宿を設けておられます。永遠なる神イエス・キリストが、限りある私たちの中に住まわれたというメッセージです。

15節を飛ばして、16節を見てまいります。〈私たちはみな、この方の満ち満ちた豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを受けた。〉とあります。〈満ち満ちた（プレローマ）〉は、当時のことばの使われ方によれば、「永遠のいのち」と同じ意味であつたようです。ということは、「私たちはみな、この方が持つ永遠のいのちの豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを受けた」と言い換えても可能かと思われまふ。そうです。イエス・キリストこそ、信じる者に永遠のいのちをもたらすお方です。ヨハネの福音書が語らんとしているのは、イエス・キリストこそ、神の恵みをもたらすお方であるというメッセージです。